

笹川保健財団 地域啓発活動助成

(西暦) 2020年 2月 7日

公益財団法人 笹川保健財団
会長 喜多悦子 殿

2019年度地域啓発活動助成

活 動 報 告 書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

Aging in Place ～地域で暮らし続けるということ～

活動団体名：一般社団法人ソーシャルデザインリガレッセ

活動者（助成申請者）名：大槻 恭子

【活動内容】

当地域で訪問看護事業を展開して約5年となる。当初は訪問看護の認知度は乏しかったが、時間の経過とともに少しずつ訪問看護や公共サービスへの認識が広がっていることを感じている。しかし一方で、死を目前に迎えた本人やご家族の拒絶感が強く、死に対する意識をシフトしていく必要があると考え、以下のワークショップを開催した。

2019年7月24日 人生会議をしませんか？ 参加者24名

人生会議に興味のある方や看取りを経験された方を中心に参加 たんぽぽ診療所が発行している『家で看取るといふこと』を用いて講座後、死生観について語り合ってもらうグループワークを実施

2019年12月22日 ケアとまちづくり 参加者30名

(株) ReDo 代表藤岡聡子氏とモバイル de 屋台カフェ守本陽一氏を招き、まちづくりや死生観に関するトークセッションとそれを踏まえてのグループワークを実施した。

【結果】

上記のワークショップ後にアンケートを実施した。

参加者の割合は、20代9%、30代27%、40代9%、50代9%、60代23%、70代23%であった。50代以下は、全員医療福祉関係者であり中には県外からの参加者もあった。60代以上は、地域住民や民生委員など福祉活動をされておりリガレッセの活動を元々知っている方が大半であった。人生会議について事前に知っていたのは45%でイベント開催後、人生会議をやってみようと思ったのは64%であった。

【考察】

元々関心のある層が参加していることも影響しているかもしれないが、人生会議について前向きな意見を持つ方が多かった。イベントを開催することで地域住民自身が活動しようと思えるきっかけになると考える。

【課題】

今回は、パンフレットをSNSとチラシの配布を実施した。SNSでの発信も行った結果、興味があれば遠方からも参加希望者がある一方で参加者はほぼ全員がすでに関心を持っている層であることが示唆された。また親が高齢者になる年代の参加が少なかった。地域啓発を促すようなポップの打ち出し方では、関心の少ない層を集客することが難しかった。意識を広めるためには、マルシェなど何か別のきっかけをもって集客し、その一角で「こんな活動もありますよ」と広めることの方が有効かと思われた。